

## 中央審査会特別賞（優秀賞）

みんなが幸せになる洋服を

茨城県

茨城大学教育学部附属中学校

三年

金沢

青空

洋服に関する事で驚いたことがある。洋服を作るために水が使用されているのだ。

例えば、コットン製のTシャツ一枚を作るために二七二〇リットルの水が、ジーンズ一本を作るために最大で一〇八五〇リットルの水が使われている。これは、洋服の色を染めるための染料を洗い流したり仕上げたりする工程や、その製品を作るための原料となっている植物などを育てるために、水を使うためである。

このように、繊維製品の生産には大量に水が使われ、その量はなんと年間で九三〇億立方メートルである。これは、オリンピックの水泳プールに換算すると、三七〇〇万杯分に値する。私はこれを知ったとき、水の量が多すぎるあまり、想像もできないくらいだった。

また、洋服に関する問題は水の大量消費だけではない。河川の水質汚染だ。衣類の染色と仕上げの工程で生じる廃水が、世界中の廃水のおよそ二〇%を占めている。この廃水の中には、窒素や殺虫剤が含まれており、その土地の生活用水を汚染していることになる。

洋服を作るために、水が使われたり、汚染されたりすることによって、人の命が奪われていると言っても過言ではない。人々の生活に使われるはずであった水が洋服の生産に使われ、生活に使える水が限られる。また、きれいで安全な水を手に入れることが困難になり、汚染された水を飲まなければならないような状況になる。

限りある水資源が大量に消費されていたり、汚染されていることはもちろん問題だ。だが、私が最も問題視する点は別のところにある。今飲む水に困窮し、健康を害したり、命を落としたりする人たちが世界中に大勢いる現状の中で、水の使い方の優先順位を改めなければならぬ点である。確かに、オシャレをしたり、新しい洋服を買ったりすることは私たちの心を豊かにし、満たしてくれる大切なものの一つである。だが、

限りある水資源の使い方を今一度考えるべきではないだろうか。私が普段着ているものが、どこかの人々の水問題をさらに悪化させているかもしれないということにとっても悲しくなった。

ショッピングモールに出かければたくさん洋服が並ぶ。テレビを見ればファッション特集が組まれている。洋服は、私たちの生活にとって当たり前であり、必要なものだ。だからこそ、一人一人が洋服と水の問題について知識を深め、考え行動していかなければならない。具体的にどんなことがあるだろうか。

例えば、購入する製品を見直すことだ。コットン製のTシャツを買う際に、オーガニックコットンを選んだり、ジーンズを買う際に、ローウオーターという手法を使ったジーンズを選んだりするだけでも、水問題に貢献することができる。オーガニックコットンを選べば従来の綿より九一%も使用する水の量を削減することができる。ローウオーターという手法のジーンズでは、使用する水の量を六一%も削減できる。

日本には、伝統的な技術に藍染めや草木染めなどがある。染料は自然に還る素材でできており、水質汚染につながることはない。このような技術に再度注目し、行動を起こすことも重要だと思う。

私たちの身につけている洋服の多くが発展途上国で生産されていることや、先述した水に困窮する人々のことを考慮すると、一刻も早く改善点を見つけるべきだ。

そのために私たちがすべきことは、正しい知識を得るために学ぶことから始まる。そこから、一人一人が行動することで、本当の意味でみんなが幸せになる洋服が世の中に広まるだろう。